

令和5年度 第3回 安曇野市水環境審議会 会議概要

1	審議会名	令和5年度 第3回 安曇野市水環境審議会
2	日 時	令和6年3月14日 午後2時00分から午後4時00分まで
3	会 場	安曇野市役所 本庁舎4階 大会議室
4	出席者	遠藤委員(会長)、村上委員(副会長)、門崎委員、崎元委員、五十嵐委員、池田委員、保尊(と)委員、中屋委員、保尊(利)委員、丸山委員、武井委員、山田委員、原委員、矢花委員、宮澤委員
5	市側出席者	沖市民生活部長、百瀬環境課長補佐、巢山環境政策担当、高橋環境政策担当
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	1人 記者 3人
8	会議概要作成年月日	令和6年3月21日

協 議 事 項 等

次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 水循環アドバイザーによる講義
「水環境保全に対する市民等の意識を効果的に向上させるため、市民・企業等が積極的に参加できる市の取り組み施策の方法」
- 4 報告事項
 - (1) 令和6年度事業について
 - (2) 「(仮称)松本盆地流域水循環計画」の策定について
 - (3) わさび田(豊科・穂高)等の湧水状況について
- 5 その他
 - ・令和6年度(第1回)の審議会開催について
- 6 閉会

会議概要

- 1 水循環アドバイザーによる講義
【スライド資料に基づき講義(水循環アドバイザー 神奈川県秦野市環境産業部参事兼環境共生課長 谷 芳生 様)】
- 2 報告事項
 - (1) 令和6年度事業について
【資料1から資料3に基づき説明(事務局)】

委 員： 資料3の「水田による地下水涵養量」算出式について、ここに記載のある涵養高(0.0275m/日)というのは、水田から地下への浸透係数と考えて良いか。私の方で2、3年の間に測った水田の浸透係数の平均値だと9.3mm/日だったため、これでは多すぎるのではないか。おそらくこちらの値は蒸発量を引いていないのではないかと思う。

事務局： こちらの数字(0.0275m/日)は、現在の水環境基本計画に記載されているデータであるため、今後見直しをしたいと思います。

- (2) 「(仮称)松本盆地流域水循環計画」の策定について
【資料4に基づき説明(事務局)】

委 員： 流域水循環計画の認定を受ける、受けないでどのような違いがあるのか。また、他の地域で認定を受けているところがあれば教えて欲しい。

事務局： 昨年度までは、国が県や市町村に補助金を交付する際の審査項目の中に認定されているかどうかといった付加的措置があったが、令和5年度になってからはこの運用がなくなった。そのため、現在は認定を受ける、受けないでメリットデメリットはない。

また、現在流域水循環計画の認定を受けている地域についてだが、安曇野市の水環境基本計画・同行動計画が認定を受けているほか、佐久地域の流域水循環計画や本日オンライン講義をいただいた秦野市の地下水総合保全管理計画も認定を受けている。

会 長： このアンケートは誰から誰に向けて行われたものか。

事務局： こちらは、アルプス地域地下水保全対策協議会の構成自治体に対して、事務局である大町市により行われた。

会 長： 協議会に参加する自治体の担当課の方々に、このような質問に対しての考え方をアンケートで確認したということか。

事務局： その通り。なお、こちらの設問についての土台は安曇野市で作成している。

そもそもの発端は、昨年2月9日に太田市長から中信4市の市長懇談会において、流域水循環計画を策定してはどうかという提案をさせていただき、賛成をいただいた。その賛成を受けて、反映できていなかった町村の意見も確認するため、アルプス地域地下水保全対策協議会を構成する11市町村+県に対して、事務局である大町市を通じてアンケートを実施した。

委 員： アンケートのQ3について、松本盆地流域として「健全な水循環」の「課題」と考えられるものとして、降雪量の変化や降雨量の変化が注目されているが、私も最近松本盆地のデータをまとめて調べたところ、盆地の降雨量が年間1,100mm程度で、山岳部になると上高地の1,500mくらいにある観測所で年間2,820mm程度となっている。山岳部の雨を集める広さは、松本盆地が480km²程度に対し、山間部は1,960km²程度と4倍以上ある。松本盆地の水資源のほとんどを山間部の降雨量が占めている。

冬場に三川合流部の湧水帯において水が枯れることがあり、ここは平均的に3年に1回程度枯れる。枯れた年と降雨データを比較してみると、枯れた年の前年の降雨量がガクッと減った時に枯れることが分かった。山間部の年間降水量は多い時と少ない時で1,000mm程度差がある。そのため、山間部の降雨量の増減が三川合流部の枯れる、枯れないという点を握っていることが分かってきた。

湧水帯のすぐ周辺で涵養することはすごく有効であると私も考えている。地下水位全面を上昇させようとしたらものすごく時間がかかるため、効果的に三川合流部の湧水の枯渇を防ごうとすれば、周辺で涵養させる策が取りあえず一番いい策だと思う。

(3) わさび田（豊科・穂高）等の湧水状況について

【資料5に基づき説明（事務局）】

会 長： この点については、毎日状況をご覧になっている2名の委員より質問や感想をお伺いしたい。

委 員： 現在組合として、わさび田でわさびを作っているかについて調査をしている。個々難しい点もあり時間はかかっているが、マップを作っていくたい。

また、組合では賦課金を組合員から頂いて事業をしている。先ほど事務局から示された資料5の期間で約1割の面積が減少し、賦課金も減少した。なお、わさび田の跡地は荒廃地化しているのが現状である。

併せて、組合員にわさび田の航空写真を見せて現状を確認したところ、（生産者の勘ではあるが）水は減少しているという報告がある。

委員： わさび田の水を利用して養殖をしている立場と感覚でお話するが、私の養魚場は常盤橋のすぐ横にある。その上流にはわさび畑が多くあるが、わさび畑そのものがわさびが出来なくなって廃業したというところはない。従って、私のやっている地域に関しては、水が減ってしまってわさびが出来なくなって廃業したという話はないほか、私どもに入っている水の量については、毎年計測している訳ではないが確かに冬場の方が水は減っている。私が事業を始めて40年近くになるが、その当時に比べれば水量は相対的に減っていると思うが、先ほど申し上げたようにわさび畑が出来なくて廃業したところがないので、他の地域に比べればあの周辺は水量的に極端に減っていないような気がする。

私の感覚で申し訳ないが、年間降水量が減少しているということで、河川の水も昔に比べてかなり減ってきている。私たちの養鱒場の横にも河川が流れているが、その河川水が減少すればわさび畑の湧水も当然減少する。そのため、横の川の水位が上がればわさび畑の湧水も増えるという感覚はある。

会長： わさび田が廃業になると、そこからくる水は減るのか。

委員： わさび畑を耕さなければ荒れてしまって下から水が出てこなくなる。そのため、流れてくる水は減ってしまう。

3 その他

(1) 令和5年度の小・中学校出前授業の実績について

【事務局より出前講座の実績について報告（事務局）】

(2) 小学生向け副読テキスト「知って 学んで 守ろう！安曇野の水」について

【作成した副読テキストについて報告（事務局）】

(3) 次回（令和6年度第1回）の審議会開催について

【次回の審議会開催予定について説明（事務局）】

<終了 16:00>

以上